市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙
To Me 広報とめ トゥー・ミー
5 May 2020 Vol.300

ときめき人
Tokimeki bito

視力を失い始めた農業で見えてきた世界

南方町・砥落出身

添野 俊さん

そえの　しゅん
1976年生まれ　　血液型／O型

Profile
妻、4人の子ども、父母の8人家族。右目失明をきっかけに農業に目覚める。主な作物は、もっこりニラ、チヂミユキナ、オクラ、ニンニク。

（右）優秀賞の賞状を手にした添野さん（右から3番目）

「JA青年の主張全国大会」（全国農協青年組織協議会主催）は2月18日、メルパルクホール（東京都港区）で開かれ、添野俊さんが優秀賞を受賞した。出場のきっかけは、JAみやぎ登米の南方青年部長から「逆境の中で一から始めた農業のことをみんなに話してみたら」と勧められたこと。

大型トレーラーの運転手だった添野さんは、8年前に右目を失明し、大型自動車免許が失効した。仕事を失い、意気消沈していたとき「家でごろごろしているなら、わら上げでも手伝え」と地元の先輩から電話があった。それを機に農業の楽しさに目覚めていく自らの経験をスピーチした。

県大会、北海道・東北ブロック大会を優勝して全国大会へ。全国の舞台では、大勢の観客を前に全力を出し切った。大会で他の発表者のスピーチを聞くうちに、「大変なのは自分だけじゃない、片目を失ったくらいなんでもない」と考え方が変わっていく。「就農後、人と話す機会が増えたら、その人のいいところが見えるようになった。ある意味、目がよくなったね」と添野さんは笑う。そして、お世話になった全ての人のためにも、最優秀賞を取って恩返しをしたいと考えるようになっていた。しかし結果は優秀賞。悔しさで涙があふれた。

「今回のスピーチは、みんなに自分のこれからを宣言したようなもの。立派なことを言ったからには、それに見合うことをやっていかないと」―。大型トレーラーから農耕用トラクターにハンドルを持ち替えた添野さんの農業ライフは始まったばかり。

編集後記

▼新しく広報担当になり、新規採用職員の辞令交付式で撮影しました。皆さんの瞳の奥にある志を感じ、自身も身の引き締まる思いでした。新米ですが、新鮮な情報をお届けできるよう頑張ります。（佐々木）

▼本年度から広報紙の担当部署が、市長公室からまちづくり推進課へ変わりました。部署が変わったからこそ作れる新しい広報紙を目指していきたいと思いますので、本年度もよろしくお願いいたします。（三浦）

▼多くの人に支えられ「広報とめ」が300号を迎えました。広報紙は市民の皆さんが主役であり読者。市の魅力、価値、エネルギーが伝わるような広報紙づくりを心掛け、本年度も頑張りたいと思います。（小野寺）

▼4月から別の部署へ異動することになりました。広報を担当するようになってから、多くの人との出会いがあり、その一つ一つが忘れられない宝物になりました。本当にありがとうございました。（伊藤・高橋）

広報とめ（5月号）
発行日／令和2年4月17日　発行／登米市
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
編集／まちづくり推進部まちづくり推進課 広報係
TEL.0220-22-2147　FAX.0220-22-9164
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp　印刷／川内印刷株式会社

登米市公式ホームページ
（新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。）https://www.city.tome.miyagi.jp/

登米市メール配信サービス
（防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。）
https://mail.cous.jp/tomecity/